

キボシツツハムシとムツキボシツツハムシ (ハムシ科, ツツハムシ亜科) の地理的分布と寄主植物

鈴木邦雄¹⁾・南 雅之²⁾

¹⁾ 〒 939-0364 射水市南太閤山 14-35 (kunimushi@shore.ocn.ne.jp)

²⁾ 〒 180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 3-17-7 (minami8535@yahoo.co.jp)

Geographical Distribution and Host Plants of *Cryptocephalus perelegans* Baly, 1873 and *C. ohnoi* Kimoto, 1983 (Chrysomelidae, Cryptocephalinae) in Japan

Kunio SUZUKI¹⁾ and Masayuki MINAMI²⁾

¹⁾ 14-35 Minami-Taikôyama, Imizu-shi, Toyama, 939-0364 Japan

²⁾ 3-17-7 Kichijôji-Honchô, Musashino-shi, Tokyo, 180-0004 Japan

Summary The large amount of collecting data (including some unpublished ones) indispensable for comprehending geographical distribution and host plants were compiled for two *Cryptocephalus* species, *C. perelegans* Baly, 1873 and *C. ohnoi* Kimoto, 1983 (Chrysomelidae, Cryptocephalinae), in Japan (Tables 1 and 2, Fig. 1) with various comments from taxonomical, zoogeographical and ecological viewpoints.

はじめに

キボシツツハムシ *Cryptocephalus perelegans* Baly, 1873 (タイプ産地: 長崎; 以下キボシ) とムツキボシツツハムシ *C. ohnoi* Kimoto, 1983 (タイプ産地: 山梨県増富 (現北斗市須玉町); 以下ムツキボシ) は、ハムシ科 Chrysomelidae, ツツハムシ亜科 Cryptocephalinae に属し、外見上酷似した種である。ムツキボシは 1983 年に命名・記載されるまでキボシとしばしば混同されていた。キボシは、近畿地方以西に広く分布するが、近年、中部・関東地方の太平洋沿岸の各地から発見されるようになった。ムツキボシは、本州の東北地方南部から中国地方まで分布するが、既知産地は局所的で、太平洋沿岸地域から内陸の山地帯にかけて採集されてきており、日本海側の地域からの採集例は報告されていない。全般的には、キボシは平地～丘陵・低山帯に、ムツキボシは低山～中山帯に生息している傾向が認められる。キボシには体背面の斑紋パターンに著しい変異が認められるが、その地理的変異はひじょうに複雑な様相を示す。ムツキボシには体背面の斑紋パターンにわずかな変異が認められるに過ぎない。

筆者らは、キボシについては従来まったく報告の無かった千葉県 (鈴木^邦・宮内・南, 2015) と滋賀県 (鈴木^邦ほか, 2015) について別稿で報告すると共に、キボシとムツキボシの両種とも存在は知られていたものの具体的な産地や採集データなどが未公表であった静岡県についても報告した (鈴木^邦・多比良・南, 2015)。

本稿では、多数の文献から得られた知見と筆者

ら自身の手許の標本の未公表採集記録や観察記録も加えて、両種の地理的分布と体背面の斑紋変異、寄主植物などに関する自然誌的情報を整理しておきたい。なお、キボシは、中国地方以西の地域には広く普通に見られることから、本稿では兵庫県以東の都府県に絞って文献調査を行い、それ以外の地域における状況については必要に応じて言及するに留めた。

本報を公表するに当たり、関連論文を恵与された故中條道夫博士、故木元新作博士、大野正男名誉教授 (東洋大学)、中村慎吾博士 (庄原市立比和自然科学博物館)、滝沢春雄博士 (埼玉県)、山崎隆弘氏 (愛知県)、平野幸彦氏 (神奈川県)、今坂正一氏 (福岡県)、故高桑正敏博士、初宿成彦氏 (大阪市立自然史博物館)、須田孫七氏 (東京都) および水野弘造氏 (京都府) に深謝する。文献の探索・記録の確認などにご助力いただいた斉藤明子博士 (千葉県立中央博物館)、宮内博至氏 (千葉県)、中川優氏 (滋賀県立琵琶湖博物館)、乙部宏氏 (三重県)、斉藤昌弘氏 (福井県)、佐藤陽路樹氏 (東京都)、多比良嘉晃氏 (静岡県) および武田滋氏 (滋賀県立琵琶湖博物館) にも深謝する。

1. キボシツツハムシとムツキボシツツハムシの地理的分布

a. キボシツツハムシ

本種は、本州、四国、九州、南西諸島 (鹿児島県・沖縄県: ほぼ全域; Kimoto & Gressitt, 1966; 大野, 1966; Kimoto, 1967, 1980; 木元, 1972, 1982; 東・木元, 1981; 屋富祖ほか編, 2002) のほか、国外では台湾

および中国に分布する (Lopatin *et al.*, 2010; 余ほか, 2010). 南西諸島以外の島嶼に関しては、八丈島 (東京都:小宮, 1983; 平野, 1988; 川畑, 2010), 家島 (兵庫県:上田, 1980; 高橋_寿, 1982, 1987), 対馬 (長崎県:木元, 1976), 平戸島 (長崎県:今坂, 2001), 五島列島 (長崎県:今坂・江島・中山, 1981), 甌島列島 (鹿児島県:木元, 1994) および男女群島 (長崎県:今坂・楨原, 1981) などから報告がある。

キボシの近畿地方以東の既知産地は、表 1 (a) に示したように、関東地方を北東限として、1 都 2 府 8 県 (関東地方 1 都 2 県:千葉県・東京都・神奈川県; 中部地方 1 県:静岡県; 近畿地方 2 府 5 県:滋賀県・京都府・兵庫県・大阪府・三重県・奈良県・和歌山県) に及んでいる。

関東地方では、八丈島やごく一部の記録を除けば、ほとんどが 2000 年以降に報告されたものであり、近年の温暖化の影響を強く反映しているのではないかと推測される。しかも、それらの報告は、東京湾沿岸地域に集中している。最近、酒井・高桑 (2015) によって東京都本土部からも記録された。八丈島の個体群について、平野 (1988) は、同島では「観葉植物の栽培が盛んとなり、琉球などから持ち込まれた苗や土が関係している」と推測しているが、筆者らも、関東地方の首都圏における近年の生息分布の拡大 (北上) 状況には同様の背景が存在している可能性が高いと推測している。本種の生息地は、今後も、関東地方北東部の、特に太平洋沿岸地域へとさらに拡大していくことも予測される。千葉県の房総半島では、東京湾だけでなく太平洋の沿岸地域からも発見される可能性が高い。神奈川県の三浦半島の東京湾や相模湾沿岸地域、静岡県の伊豆半島の相模湾と駿河湾沿岸地域には、既に広く定着しているのではないかと推測される。鈴木ほか (2015) が言及したように、本稿の準備過程で、愛知県下から本種として報告された記録は、すべてムツキボシであることが明らかになったが、知多半島や渥美半島の太平洋 (遠州灘)、三河湾および伊勢湾の沿岸地域には既に定着している可能性が高い。同好諸氏の注意を喚起したい。

b. ムツキボシツツハムシ

本種は、筆者らがこれまでに知り得た限り、記載後、表 1 (b) に示したように本州の東北地方南東部から中国地方にかけての 1 都 1 府 13 県 (東北地方 1 県:福島県; 関東地方 1 都 4 県:栃木県・茨城県・千葉県・東京都・神奈川県; 中部地方 4 県:長野県・山梨県・静岡県・愛知県; 近畿地方 1 府 2 県:京都府・奈良県・和歌山県; 中国地方 2 県:広島県・山口県) から報告されてきた。

本種の分布は、本州の東北地方南部から中国地方に限られ、しかも日本海側の地方からはほとんど報告がなく、山崎_隆が多く_の報文で報告している愛知・長野両県下の数ヶ所を除けば、ほとんどの報告はきわめて少数個体の採集記録に基づくものである。

本種の既知産地はかなり広域に及んでいるが、かなりの偏りがあることが地図 (b) から読み取れる。東北地方では、福島県のみから知られており、既知産地は分布北限でもある福島県最北部と中央部の太平洋沿岸の 2 ヶ所のみだが、同県中～西部にも生息している可能性が高い。また、福島県より北の地域、取り敢えずは山形県の東半部と宮城県南部地域からの発見が期待される。

関東地方では、群馬県と埼玉県からはまったく記録がないが、いずれも生息している可能性は高い。茨城県は、最北部の八溝山からの記録があるのみだが、中～南部の内陸部からの発見が期待される。本種は、1983 年になって記載されたこともあり、それ以前にキボシとして報告された記録の中には本種が混じっていた可能性があり、鈴木_邦・宮内・南 (2015) が明らかにしたように、須田 (1982) による東京都本土部 (青梅市) からのキボシの古い記録は、ムツキボシであった。東京都西部の低～中山帯にはかなり普遍的に生息しているのではないかと推測される。また、斉藤_明・尾崎・鈴木_勝 (2013) が報告した 2012 年 7 月 17 日に採集された千葉県君津市折木沢からの記録は、同県唯一のものだが、産地は房総半島中南部の低山帯で興味深い。この記録についても、鈴木_邦・宮内・南 (2015) が明らかにしたように、鈴木_邦がその前年の 2011 年 6 月 14 日に君津市鹿野山の山頂付近でキボシの♀を 1 個体採集していたこともあり、上記君津市折木沢産の標本を実検しムツキボシの♀であることを確認している。房総半島の内陸部は、標高は低いものの、谷が深い場所が多く、多くの昆虫群で興味深い種が発見されているから、特に県中～南部から新たな生息地が発見される可能性があるだろう。また、山崎_秀 (2003) は房総半島南半部の房総丘陵よりムツキボシを報告 (具体的な採集データの記載なし) したが、その記録についても、鈴木_邦・宮内・南 (2015) は、原論文の記録の誤引用による誤りであることを明らかにした。

中部地方は、各地から採集記録がある。筆者らの一人鈴木_邦は、既に 1958 年 7 月に、本種を山梨県山中湖畔で 1 個体 (性別不明) 採集している (鈴木_邦・多比良・南, 2015)。この記録は、神谷 (1955) の愛知県設楽町 (採集データなし) に次ぐ古いも

表1. 日本列島におけるキボシツツハムシ (近畿地方以东) (a) とムツキボシツツハムシ (b) の既知産地 (参考までに台湾を加えた). Table 1. Known habitats of *Cryptocephalus perelegans* Baly, 1873 (a) and *C. ohnoi* Kimoto, 1983 (b) in the Japanese Islands.(a) キボシツツハムシ *Cryptocephalus perelegans* Baly, 1873

都府県 The administrative divisions of Japan	
産地 Habitat	採集個体数 No. specimens collected / 採集年月日 Collecting date / 採集者 Collector / 文献 References / [著者らの註 Authors' comments]
関東地方 Kantô District	
千葉県 Chiba Pref.	
1 千葉市中央区青葉の森公園 Chiba-shi (Chûô-ku) / 1 / 22-V-2016 / 関信一郎 / 齊藤 _前 (2016)	同上 / 1 / 31-V-2016 / 齊藤明子 / 齊藤 _前 (2016)
2 富津市鹿野山 Futtsu-shi (Mt. Kanô-san) / 1♀ / 14-VI-2011 / 鈴木邦雄 / 鈴木 _邦 ・宮内・南 (2015) / [千葉県初記録]	富津市岩坂 / 2♀♀ / 2-VI-2014 / 宮内博至 / 鈴木 _邦 ・宮内・南 (2015) / [千葉県初記録]
東京都 Tokyo Metropolitan Area	
3 大田区東海野野鳥公園 Ôta-ku (Tôkai) / 3 / 23-VI-2013 / 高桑正敏 / 酒井・高桑 (2015) [東京都初記録]	同上 / 3 / 28-VI-2013 / 酒井香 / 酒井・高桑 (2015) [東京都初記録]
同上 / 1 / 5-VII-2013 / 酒井 / 酒井・高桑 (2015) [東京都初記録]	同上 / 7 / 9-VI-2014 / 高桑・太田裕司 / 酒井 / 酒井・高桑 (2015) [東京都初記録]
同上 / 1 / 20-VI-2014 / 高桑 / 酒井・高桑 (2015) [東京都初記録]	同上 / 1 / 14-VII-2014 / 高桑 / 酒井・高桑 (2015) [東京都初記録]
同上 / 1 / 22-VII-2014 / 酒井 / 酒井・高桑 (2015) [東京都初記録]	
4 八丈島大賀郷 I. Hachijô-jima (Ôkagou) / 11 / 1-VII-1988 / 平野幸彦 / 平野 (1988)	八丈島大賀郷 / 1 / 25-VIII-1996 / 川畑喜照 / 川畑 (2010)
同上 / 5 / 5-V-2001 / 川畑喜照 / 川畑 (2010)	八丈島樫立 / 2-VII-1988 / 平野幸彦 / 平野 (1988) / [「八丈島のもとは typical のものと <i>insularis</i> といわれる前胸 [背] が M 字形に黒くなる方が混じっているが, <i>insularis</i> の方が多い」 および「八丈島では観葉植物の栽培が近年特に盛んとなり, 東京都の生産高の 90% を占めている. 詳細は今後調べなければ何ともいえないが, 琉球などから持ち込まれた観葉植物の苗や土が関係していると思われる」との記述がある. 筆者らの意見は, 本稿の本文中で言及する. なお, 平野が「 <i>insularis</i> 」と記しているのは, <i>insulanus</i> の誤り]
八丈島防衛道路 / 2 / 4-VII-1978 / 大熊純 / 小宮 (1983)	八丈島三根 / 2 / 22-VI-1996 / 川畑喜照 / 川畑 (2010)
同上 / 1 / 3-V-1997 / 川畑喜照 / 川畑 (2010)	八丈島末吉 / 1 / 29-VI-2009 / 川畑喜照 / 川畑 (2010)
神奈川県 Kanagawa Pref.	
5 横浜市港南区芹が谷 Yokohama-shi (Kônan-ku) / - / 6~7-VI-2009 & 18-VI-2011 / 星野康男 / [星野: プログ: 宮谷 (2012) を参照]	横浜市戸塚区汲沢町 / 1 / 13-VII-2008 / 宮谷秀明 / 宮谷 (2009)
同上 / 3♂♂ 4♀♀ / 3&10-VI-2011 / 宮谷秀明 / 宮谷 (2012)	
6 藤沢市遠藤中尾 Fujisawa-shi (Endou) / 1 / 25-V-2004 / 堀井邦弘 / 堀井 (2005) / [神奈川県初記録]	同上 / 12 / 12-VI-2005 / 堀井邦弘 / 堀井 (2008)
同上 / 6 / 13-VI-2005 / 堀井邦弘 / 堀井 (2008)	同上 / 1♀ / 23-VI-2007 / 堀井邦弘 / 堀井 (2008)
藤沢市遠藤笹窪谷 / 1♂1♀ / 23-VI-2007 / 堀井邦弘 / 堀井 (2008)	
7 茅ヶ崎市芹沢城之腰 Chigasaki-shi (Serizawa) / 1 / 25-VI-2011 / 岸一弘 / 岸 (2012)	
8 横須賀市追浜本町 Yokosuka-shi (Oppama-Hon-chô) / 1 / 24-VI-2012 / 鈴木裕 / 鈴木 _邦 (2012)	横須賀市岩戸 / 1 / 15-VI-2012 / 坂本繁夫 [クリの花のスイーピング] / 坂本 (2012) / [「近年に分布するようになった」と記す]
中部地方 Chûbu District	
静岡県 Shizuoka Pref.	
9 静岡市葵区井川井川谷 Shizuoka-shi (Aoi-ku) / 1♀ / 19-IX-1983 / Y. Tahira / 原木 (1984) / [静岡県初記録]	
10 富士市五貫島富士川河口付近 Fuji-shi (Gokanjima) / 6♂♂3♀♀ / 23-V-2009 / 多比良嘉晃 [一部はイタチハギ花上] / 鈴木 _邦 ・多比良・南 (2015)	
11 浜松市佐鳴湖富塚 Hamamatsu-shi (Sanaru-ko) / 1♂ / 21-V-2006 / 加藤徹 / 加藤・多比良・塩澤 (2008), 鈴木 _邦 ・多比良・南 (2015)	浜松市佐鳴湖 / 1♀ / 31-V-2006 / 加藤徹 [FIT 衝突板トラップ] / 加藤・多比良・塩澤 (2008), 鈴木 _邦 ・多比良・南 (2015)
浜松市佐鳴湖大平台 / 1♀ / 14-VI-2006 / 加藤徹 / 加藤・多比良・塩澤 (2008), 鈴木 _邦 ・多比良・南 (2015)	
近畿地方 Kinki District	
滋賀県 Shiga Pref.	
12 大津市秋葉台 Ôtsu-shi (Akibadai) / 1♀ / 23-VI-2014 / 齊藤昌弘 / 鈴木 _邦 ほか (2015) [滋賀県初記録]	大津市神出開町 / 1♀ / 5-VI-2008 / 中川優 / 鈴木 _邦 ほか (2015) [滋賀県初記録]
大津市園山町 / 1♀ / 22-VI-2011 / 中川優 / 鈴木 _邦 ほか (2015) [滋賀県初記録]	大津市山上町 / 1♀ / 28-V-2012 / 中川優 / 鈴木 _邦 ほか (2015) [滋賀県初記録]
同上 / 1♂ / 1.VI.2014 / 中川優 / 鈴木 _邦 ほか (2015) [滋賀県初記録]	大津市小関町 / 1♀ / 18.VI.2009 / 中川優 / 鈴木 _邦 ほか (2015) [滋賀県初記録]
同上 / 1♂ / 23.VI.2012 / 中川優 / 鈴木 _邦 ほか (2015) [滋賀県初記録]	同上 / 1♀ / 19.VI.2014 / 中川優 / 鈴木 _邦 ほか (2015) [滋賀県初記録]
同上 / 1♀ / 23.VI.2014 / 中川優 / 鈴木 _邦 ほか (2015) [滋賀県初記録]	
三重県 Mie Pref.	
13 津市美杉町川上 Tsu-shi (Misugi-chô) / - / - / 島地岩根 / 島地 (1996) / [三重大学平倉演習林におけるライトトラップによる 1966-90 年の四半世紀におよぶ連続調査結果. 個別の具体的な採集データは不記載]	
14 多気郡大台町 [旧宮川村] 大杉南谷ツガ林 Taki-gun (Ôdai-chô) / - / 9-VIII-1974 / 島地ほか [ライトトラップ] / 山下ほか (1972)	多気郡大台町 [旧宮川村] 桃の木 / - / 25-VIII-1971 / 島地岩根 / 山下ほか (1972) / [三重県初記録]
15 尾鷲市南浦ケチスボダム Owase-shi (Minamiura) / - / 4-V-1980 / 生川展行 / 市橋ほか (1982)	
京都府 Kyoto Pref.	
16 八幡市 (三川合流) Yawata-shi / 1 / 19-VI-2000 / S. Shiyake / 高橋 _敏 (2012) / [京都府初記録]	
兵庫県 Hyogo Pref.	
17 神戸市灘区摩耶山 Kôbe-shi (Nada-ku) / 5 / 26-VI-1949 / Yoshito Wada / 高橋 _敏 (2012)	神戸市兵庫区鳥原町 / 1 / VII-1940 / 高橋寿郎 / 高橋 _敏 (1982) / [初出文献は, 高橋 _敏 (1941). 本州初記録. 採集年月日は,

表1 (続き) . 日本列島におけるキボシツツハムシ (近畿地方以东) (a) とムツキボシツツハムシ (b) の既知産地 (参考までに台湾を加えた) . Table 1. Known habitats of *Cryptocephalus perelegans* Baly, 1873 (a) and *C. ohnoi* Kimoto, 1983 (b) in the Japanese Islands.

都府県 The administrative divisions of Japan	
産地 Habitat / 採集個体数 No. specimens collected / 採集年月日 Collecting date / 採集者 Collector / 文献 References	／ [著者らの註 Authors' comments]
高橋 _# (1982) で初めて記録 同上 / 計 57 / 2-VI-19-VII-1966-83 / - / 高橋 _# (1982, 1987) / [ここには、高橋 _# の2論文に報告されている多数の記録を一括して記した。高橋 _# (1988) には、「依然神戸市内にごく普通に見られるのに県下で他の地域にて採集出来ていないハムシの1つである」との記述がある]	
18 姫路市 [旧飾磨郡] 家島町 Himeji-shi (I. Ie-shima) / - / 8-VII-1977, 3-V-1980, 29-VI-1980 / 丸川隆志 (一部?) / 上田 (1981) / [高橋 _# (1982, 1987) による。兵庫県初記録。家島は、播磨灘北部に位置する家島諸島第2の島]	
大阪府 Osaka Pref.	
19 泉南郡岬町上孝子 Sennan-gun (Misaki-chô) / 1 / 28-VI-1987 / A. Ichikawa / 高橋 _# (2012) / [大阪府初記録]	
奈良県 Nara Pref.	
20 奈良市中町 Nara-shi (Naka-machi) / - / 24-V-2011 / 中谷祐輔・矢野栄二 [寄主: クヌギ] / 中谷・矢野 (2013)	
21 吉野郡十津川村護摩壇山 Yoshino-gun (Totsukawa-mura) / 1 / 2-VI-1957 / Y. Shibata / Kimoto & Hiura (1964) / [奈良県初記録]	
和歌山県 Wakayama Pref.	
産地不詳 / - / - / 高橋 _# (2012) / [「S. Kimoto による <i>perelegans</i> との同定ラベルが付されている」との記述あり]	
22 田辺市龍神村護摩壇山 (標高 1,372 m) Tanabe-shi (Rûjin-mura) / 1 / 2-VIII-1957 / Y. Shibata / Kimoto & Hiura (1964), Ref. 高橋 _# (2012) / [和歌山県初記録。奈良県吉野郡十津川村との県境に位置するが、和歌山県側]	
(b) ムツキボシツツハムシ <i>Cryptocephalus ohnoi</i> Kimoto, 1983	
都府県 The administrative divisions of Japan	
産地 Habitat / 採集個体数 No. specimens collected / 採集年月日 Collecting date / 採集者 Collector / 文献 References	／ [著者らの註 Authors' comments]
東北地方 Tôhoku District	
福島県 Fukushima Pref.	
1 福島市飯坂町焼松 (中通り) Fukushima-shi (Iizaka-machi) / 1 / 29-VI-1997 / 斎藤修司 / 斎藤 _# (1998) [福島県初記録]	
2 双葉郡榊原町木戸川 (浜通り) Futaba-gun (Naraha-machi) / 1 / 14-VIII-1994 / 露木 / 斎藤 _# (2016)	
関東地方 Kantô District	
栃木県 Tochigi Pref.	
3 那須郡那須町豊原乙 Nasu-gun (Nasu-machi) / 1 / 29-VI-1999 / 稲泉三丸 / 稲泉 (2003) / [稲泉 (2000) での「那須町常民夕狩」の記録の地名を訂正] 那須郡那須町那須御用邸 / 1 / 16-VI-2005 / 滝沢春雄 / 滝沢 (2012)	
4 那須塩原市大沼 (塩原開拓) [塩原町大沼] Nasu-Shiobara-shi (Onuma) / 1 / 7-VII-1991 / 大桃定洋 / 大桃 (1992) / [栃木県初記録]	
5 日光市山久保 Nikkô-shi (Yamakubo) / 2 / 7-VII-1998 / 森島直哉 / 佐藤・大桃・滝沢 (1999) 鹿沼市上南摩 / - / - / VI-1992-94 / - / 滝沢 (1994a)	
6 鹿沼市粕尾峠～地藏岳 Kanuma-shi (Kasuo-tôge-Mt. Jizô-dake) / 2 / 16-VII-2012 / 稲泉三丸 / 稲泉 (2014)	
7 佐野市秋山町 Sano-shi (Akiyama-chô) / 1 / 21-VI-1998 / 岩井大輔 / 稲泉 (2000)	
茨城県 Ibaragi Pref.	
8 久慈郡大子町八溝山 (標高 900 m) Kuji-gun (Daigo-machi) / 1 / 1-VIII-2004 / 高野 / 大桃 (2008) / [茨城県初記録]	
千葉県 Chiba Pref.	
9 君津市折木沢 Kimitsu-shi (Orikisawa) / 1♀ / 17-VII-2012 / 齊藤明子 [ライトトラップ] / 齊藤 _# ・尾崎・鈴木 _# (2013) / 千葉県初記録 / [房総丘陵からの山崎 _# (2003) の記録は、一次文献における誤同定とその誤引用によるので削除されるべきである (鈴木 _# ・宮内・南, 2015)]	
東京都 Tokyo Metropolitan Area	
10 青梅市青梅丘陵 Oume-shi (Oume Kyûryô) / 1 / 15-VI-1980 / 柿木勇二 / 須田 (1982) / [キボシとして報告されたが、この標本を含む須田昆虫コレクションの標本目録 (須田・須田・高槻, 2007) が出版され、この標本の画像も公開され、筆者らはその画像から、ムツキボシであることを確認した。 (http://umdb.um.u-tokyo.ac.jp/DDoubutu/sudaColl/recordlist.php?max=25&action=findall&skip=0&link)]	
11 青梅市御岳山 (標高 929 m) Oume-shi (Mt. Mitake-san) / 1♀ / 29-VII-1977 / 新里達也 [標高 700 m 付近] / 新里 (1984)	
12 西多摩郡奥多摩町大岳山 (標高 1,266 m) Nishi-Tama-gun (Okutama-machi - Mt. Ôdake-san) / 1 / 17-VII-1966 / Y. Kusui / Kimoto (1983) / [本種唯一のパラタイプ。大岳山は、奥多摩町と松原村 (西多摩郡) の県境に位置する。東京都初記録]	
13 八王子市高尾山 Hachioji-shi (Mt. Takao-san) / 2 / 2-VII-2014 / 松原豊 / 松原・鎌倉 (2016)	
神奈川県 Kanagawa Pref.	
14 愛甲郡愛川町高取山 Aikou-gun (Aikawa-machi) / 1 / 26-VII-1995 / 菊部治紀ほか / 菊部ほか (1999) / [平野 (2006) は、本産地と小田原市久野を挙げ、県カテゴリーで「絶滅危惧Ⅱ類」(旧判定「絶滅危惧Ⅰ類」としている)]	
15 相模原市緑区青根 [津久井町青根] 神ノ川広河原 → 源蔵新道 (佐藤新道) Sagami-hara-shi (Midori-ku) / 1 / 15-VII-2005 / 有井一雄 / 有井 (2008)	
16 厚木市七沢 (標高 340-680 m) Atsugi-shi (Nanasawa) / 1 / 21-VI-1997 / 梶真史 / 平野・高橋 _# ・梶 (2006) 厚木市七沢唐沢峠 (標高 810 m) / 1 / 4-VII-1997 / 梶真史 / 平野・高橋 _# ・梶 (2006)	
17 小田原市久野 Odawara-shi (Kuno) / 1 / 16-VI-1957 / 平野幸彦 / 平野 (1966) / [キボシとして。平野 (1985) で訂正。神奈川県初記録。なお、平野ほか (1995) は、本産地を挙げ、「絶滅危惧Ⅱ類」とし、平野 (2006) は、本産地と愛甲郡愛川町高取山を挙げ、県カテゴリーで「絶滅危惧Ⅱ類」としている] 同上坂下 / 2 / 31-V-2014 / 渡辺恭平 / 渡辺 (2015)	
18 足柄下郡箱根町塔之峰 (標高 250 m) Ashigara-shimo-gun (Hakone-machi) / 1♂1♀ / 15-VI-2016 / 松原豊 / 松原 (2017)	
中部地方 Chûbu District	
長野県 Nagano Pref.	
*19 松本市安曇島々 Matsumoto-shi (Azumi) / 1 / 22-VII-1967 / 穂積俊文 / 穂積 (1997) / [キボシとして。記載以降の記録であるが、「この標本は ab. <i>gotoi</i> Nakane である」との記述があり、ムツキボシと判断した]	
*20 諏訪市霧ヶ峰高原霧ヶ峰牧場 Suwa-shi (Kirigamine-kôgen) / 1♀ / 18-VIII-2007 / 鈴木邦雄 / 本報告 * 同上 / 2 / 5-VII-2009 / 齊藤昌弘 / 本報告 * 同上 / 1♂1♀ / 14-VII-2012 / 鈴木邦雄 / 本報告 * 同上 / 1♂ / 25-VII-2012 / 鈴木邦雄 / 本報告 * 同上池のくろみ / 1♂ / 14-VII-2012 / 鈴木邦雄 / 本報告	

表1 (続き) . 日本列島におけるキボシツツハムシ (近畿地方以东) (a) とムツキボシツツハムシ (b) の既知産地 (参考までに台湾を加えた) . Table 1. Known habitats of *Cryptocephalus perelegans* Baly, 1873 (a) and *C. ohnoi* Kimoto, 1983 (b) in the Japanese Islands.

都府県 The administrative divisions of Japan	産地 Habitat / 採集個体数 No. specimens collected / 採集年月日 Collecting date / 採集者 Collector / 文献 References
/[著者らの註 Authors' comments]	
21 伊那市萱 (小黒川) ~ 桂小場 Ina-shi (Kaya) / 1 / 23-VII-2004 / 浅岡孝知 / 中村 _註 ほか (2005)	伊那市小黒日向 / 1 / 23-VII-2004 / 浅岡孝知 / 山崎 _註 (2007b)
22 飯田市上村 [下伊那郡上村] 下栗 Iida-shi (Kami-mura) / 20 / 20-VII-1996 / 山崎隆弘 [全て灯火] / 山崎 _註 (2003a) / [長野県初記録]	下伊那郡阿智村 / 2 / 21-VII-1996 / 浅岡孝知 / 山崎 _註 (2007b) / [産地名が下栗とあり, 飯田市上村下栗を指す?]
23 下伊那郡阿智村蛇峠山 Shimo-Ina-gun (Achi-mura) / 1 / 28-VII-2006 / 山崎隆弘 / 山崎 _註 (2007a)	山梨県 Yamanashi Pref.
24 北杜市須玉町増富 Hokuto-shi (Sutama-chô) / 1 / - / - / Kimoto (1964) / [調査標本リスト中に「Yamanashi: Masutomi」と記されているのみ, この標本が Kimoto (1983) で記載されたムツキボシのホロタイプとなった. 大野・鈴木 _註 (1971) は, この記録を引用し, 山梨県金峰山麓のハムシ相の報告の中で, 「北上・東進要素」として注目している. 山梨県初記録]	同上 / 1 / 28-VII-1957 / S. Kimoto / Kimoto (1983) / [ムツキボシの原記載, 山梨県初記録. 他に東京都大岳山産の1個体がバラタイプとされている. → 東京都の欄を参照]
25 韮崎市御座石鉾泉 Nirasaki-shi (Gozaishi-kôsen) / - / - / 8-VII-1989 / 細田倅市 / 水野・細田 (1991)	同上 / - / 27-VII-1995 / 水野弘造 / 水野・細田 (2010)
*26 南都留郡鳴沢村軽水林道 Minami-Tsuru-gun (Narusawa-mura) / 1 / 4.IX.2006 / 南雅之 / 本報告	富士北麓地域 / - / - / - / 篠田 (2003) / [調査範囲は, 添付地図から南都留郡富士河口湖町, 同鳴沢村および富士吉田市に該当するのだが, 採集データは無記載]
27 南都留郡山中湖村 Minami-Tsuru-gun (Yamanaka-ko-mura) / 1 / 24-VII-1958 / 鈴木邦雄 / 鈴木 _註 ・多比良・南 (2015) / [本種の最も古い採集記録の一つ. 標本は, 大野正男氏所蔵]	静岡県 Shizuoka Pref.
28 富士宮市山宮 (標高約 450m) Fujinomiya-shi (Yamamiya) / 1 ♀ / 15-VI-1983 / 多比良嘉晃 [マメザクラ葉上] / 鈴木 _註 ・多比良・南 (2015)	29 賀茂郡河津町梨本天城峠 Kamo-gun (Kawazu-chô) / 1 ♀ / 22-VII-11-IX-2007 / 加藤徹 [死体・マレーズトラップ] / 鈴木 _註 ・多比良・南 (2015)
同上 / 1 ♂ 1 ♀ / 4-5-VIII-2007 / 加藤徹 [ライトトラップ] / 鈴木 _註 ・多比良・南 (2015)	30 浜北市浜北区 [旧浜北市] 根堅 (静岡県林業技術センター構内; 標高約 80 m) Hamamatsu-shi (Hamakita-ku) / 1 / 2-16-VI-1999 / 加藤徹 [ホドロン (安息香酸・オイゲノール油剤の製品名) を用いたサンケイ化学社製黒色誘引器による捕獲] / 加藤・多比良 (2005) / [静岡県初記録]
静岡県 / - / - / - / 多比良 (2005) / [参考記録. 静岡県の野生生物目録中で種名のみ記録]	愛知県 Aichi Pref.
31 豊田市稲武町 [北設楽郡稲武町] 面ノ木 Toyota-shi (Inabu-chô) / - / 9-VIII-1992 / 山崎隆弘 / 山崎 _註 (1996b) / [北設楽郡設楽町 (旧津具村) と豊田市稲武町の境界に面ノ木峠が位置する. このデータは, 稲武町側を指す]	豊田市 [旧東加茂郡旭町] 旭八幡町 / 1 / 5-VII-1997 / 蟹江昇 / 山崎 _註 (2001)
32 北設楽郡設楽町段戸 Kita-Shitara-gun (Shitara-chô) / - / - / 神谷一男 / 神谷 (1955) / [キボシとして. 愛知県初記録. 山崎 _註 (1992) 参照]	北設楽郡設楽町 [旧津具村] 面ノ木 ~ 茶白山 / - / - / 佐藤正 (1976) / [キボシとして. 採集データはない. 茶白山 (標高 1,415 m) は, 長野県との県境に位置し, その南側に広がる茶白山高原をほぼ東西に高原道路が走る. 山崎 _註 (2003b) 参照]
33 北設楽郡豊根村茶白山 Kita-Shitara-gun (Toyone-mura) / 14 / 21-VII-1991 / 山崎隆弘 / 山崎 _註 (1992) / [「普通に見られる. 主としてカラマツから得られた. 愛知県初記録」とある. 神谷 (1955) および佐藤正 (1976) のキボシツツの記録は本種を指す]	* 同上 / 4 / 18-VII-2010 / 山崎隆弘 / 本報告
34 岡崎市本宮山山頂部 Okazaki-shi (Mt. Hongû-zan) / 9 / 26-VII-2006 / 山崎隆弘 / 山崎 _註 (2008)	近畿地方 Kinki District
京都府 Kyoto Pref.	35 京都市左京区杉峠 Kyoto-shi (Sakyô-ku) / - / 6-VIII-1972 / - / 水野 (1992) / [キボシとして. 京都府初記録. 水野 (2001) で訂正. 高橋 _註 (2002) は, この水野の記録を本種として挙げた]
奈良県 Nara Pref.	36 山辺郡「春日」? Yamabe-gun (Kasuga)? / - / - / - / Nakane (1963b) / [キボシの1型 f. <i>gatoi</i> として記載された. 奈良県初記録. 産地は, 「Kasuga, Nara」としか記されていない. おそらく山辺郡春日であろうと推測されるが, 春日大社のある奈良市春日野町の可能性もあり, 断定できない]
和歌山県 Wakayama Pref.	37 伊都郡紀伊丹生川流域 Ito-gun (Kudoyama-chô) / - / - / - / 紀伊丹生川流域委員会編 (2001) / [調査地は, 伊都郡九度山町と橋本市にわたる地域だが, 特定できない. 昆虫類 2343 種のリスト中, コウチュウ類は 737 種, うちハムシ科 61 種のリスト. ムツキボシを含むが, 採集データの詳細は無記載. 和歌山県初記録]
中国地方 Chûgoku District	広島県 Hiroshima Pref.
38 府中市父石町大渡橋 Fuchû-shi (Chiishi-chô) / 2 / 16-V-1997 / - / 中村 _註 ・高山・浜口 (2000)	39 大竹市弥栄ダム Ôtake-shi (Yasaka-dam) / 5 / 20-21-V-1994 / - / 中村 _註 ・奥田・野見山 (1996) / [広島県初記録]
山口県 Yamaguchi Pref.	40 岩国市美和町羅漢山 Iwakuni-shi (Miwa-chô) / - / 4-VIII-1986 / 田中馨 / 三好・田中 (1988) / [山口県初記録]
*	
Formosa (台湾)	Taipei County, Shihding (石碇) / 2 ♂ 2 ♀ / 10-IV-2001 / H.-T. Shih / Shih (2002) / [台湾初記録. 寄主としてシマイズセンリョウ <i>Maesa tenera</i> Mez (ヤブコウジ科 Myrsinaceae) を挙げている. 日本産本種と同種であるかどうか要検討]

キボシについては近畿地方以东の全ての既記録を, ムツキボシについては台湾を含む全ての既記録を, それぞれ原則として一次文献を参照した上で収録することを目指した. 産地名は, 調べがつく限り現時点での行政区分に基づく表記で統一し, 原論文における表記との関連が不明瞭な場合に限って旧地名を直後に [] 内に示した. この際, 主に以下の資料に依拠した: 『なるほど市町村合併 都道府県別 日本地図帳』(2006年. 昭文社, 東京), 『新版 日本分県地図地名総覧』(2005年. 人文社, 東京) および 『郵便番号簿 平成28年度版』(2016年. 日本郵便株式会社). 最初の2資料は, いずれもここに掲げたものが最新版で, 「平成の大合併」と呼ばれる市町村合併を2005年時点で予定されていたものも含んでいる. その後の市町村合併を含め, 現時点での行政区画に関する最新情報に関して最も手頃を知るには, 『郵便番号簿』(本稿執筆時点では, 2016年版が最新) が便利である. 代表的な産地を図1に示し, 地図上の記号の範囲にほぼ収まる近隣の産地は1個のみを示し, 相互に対応する通し番号を付した. 文

献は、原則として当該採集データが最初に記録された一次文献のみを挙げるように努めた。二次文献の中には、一次文献のデータをそのまま転載しただけのものから新たな追加データを含むもの、一次文献における内容の修正を記してあるものなどもあるので注意を要する。特にムツキボシは、1983年に記載される以前にはキボシとして記されている場合があること、同じツツハムシ亜科のムツボシツツハムシ *Cryptocephalus sexpunctatus* (Linnaeus, 1758) やヒゲナガハムシ亜科 *Galerucinae* のムツキボシハムシ *Gallerucida lewisi* (Jacoby, 1885) と混同されて引用されている場合もあるので注意を要する。本稿では、可能な限り検討を加えた結果を示した。一次文献を直接参照し得ず、やむを得ず二次文献からの間接引用によったためデータの詳細などが把握できなかった場合がいくつかあった。一次文献にも、種名のみで、具体的なデータが記されていない場合があるが、いずれの場合にも、データの詳細を把握し得なかった場合は、該当欄に「-」記号で示した。一次文献に関する書誌情報などについては、筆者らの参照した二次文献を直後に [] 内で示し、同年に同一著者らによる複数論文のある場合は、読者の検索の便のため、筆者らの参照した二次文献における扱い通りに記し、[] 内に記してある文献を参照すれば原論文を知ることができるように配慮した。筆者らのコメントを必要に応じて最後に [] 内に記した。本表全体にわたって、[] 内に記した内容は、全て筆者らによる注記と理解されたい。筆者らの手許の標本や本稿のために提供された未公表記録には、産地名の頭に *印を付した。産地は都府県ごとに纏めた。都府県および同一都府県内の産地は、最北端→最東端の緯度/経度を一義的な規準として、北→南、東→西の順に配列した。All the known habitats in the region east of the Kinki District, Honshu, for the former species and all the known habitats (including those in Formosa just for reference) for the latter species are compiled. Representative habitats are shown in Fig. 1.

のである。既知産地の地図は、小縮尺ではあるが、長野県北半部、岐阜県、静岡県中北部には、かなりの空白地帯が認められ、今後、多くの生息地が発見される可能性が高い。長野県では、穂積 (1997) がキボシの 'ab. *gotoi* Nakane' として記録した安曇村島々谷 (現松本市安曇島々) と鈴木_邦が、近年、共同研究者と共に数個体採集している (本報告) 諏訪市霧ヶ峰高原より北の地域では発見されていない。県中南部からは各地から記録がある。筆者らは、東京青梅市の記録とは反対に、本種の記載後に本種として報告された記録の中にキボシが混入している可能性もあると推測し、山崎隆弘氏の協力を得て再検討した結果、愛知県からキボシとして報告された古い記録は、全てムツキボシであることを明らかにし得た。

近畿地方は、既知産地がきわめて局所的で空白地帯が多いが、広島・山口両県にも既知産地があることから、滋賀・兵庫・三重県下にも生息地のある可能性は高い。

中国地方の産地は、広島県の東端部と西端部、山口県東部の3ヶ所のみだが、それら以外の産地はいずれも近畿地方以東であり、最も近い京都府の産地とは約300 kmの距離がある。地理的に、岡山県下にも生息地のある可能性は高い。

本種は、以上のように本州の東北・関東・中部・東海・近畿・中国地方から報告されてきた。しかし、四国、九州および南西諸島などからもまったく知られていないにもかかわらず、台湾からの記録がある (Shih, 2002)。台湾、中国南部およびベトナムにかけては、翅鞘斑紋パターンの類似したキンバネツツハムシ *C. luteosignatus* Pic, 1922 などが知られており (Chūjō, 1954; 木元, 1997, 2003)、論文中に添付されているカラー写真によれば、体背面の斑紋の基本パターンは正しく本種のそれと同一であるが、斑紋は淡黄白色、前胸背や脚がかなり濃い赤褐色であり、印象もかなり異なっており、その信憑性には疑問を抱かざるを得ない。日本産の個体との詳細な比較検

討が必要ではないかと考える。

本種の既産地は、関東・中部地方においては、一部を除いて、これまでのところほぼ低～中山帯に限られているように思われる。鈴木_邦は、自身の採集経験と既知の採集記録に関する断片的な情報から、本種は主に関東地方から中部地方にかけての山地帯に生息している種ではないかと推測していた。例外的で特筆すべきなのは、千葉県房総丘陵 (斎藤_明・尾崎・鈴木_邦, 2013) と伊豆半島の天城峠 (鈴木_邦・多比良・南, 2015) からの記録である。両者は、いずれも半島部で、標高もそれほど高くないことから、互いにそれぞれの地域での今後のより詳細な生息状況の調査が期待される。静岡県からの記録のうち、浜北市のそれも、例外的に標高80 mほどのごく低丘陵地からのもので注目される。

図1に、表1に示したキボシツツ (a) とムツキボシツツ (b) の地理的分布を示した。

なお、北村 (1989) は、富山県初記録種としてキボシを記録した [採集記録: 1♂. 黒部峡谷宇奈月町鐘釣. 25~26-VII-1987. 田中忠次採集]。この記録は採集者から提出された採集記録をそのまま取り纏めて発表したものとのことである (北村, 私信) が、採集地は黒部峡谷の奥の標高もかなり高く、本稿で集約した既知産地の全般的な状況から判断する限り、本種が富山県下に生息している可能性はほとんどないと思われる。本種はひじょうに特徴的な種であり、採集者も長年にわたって富山県のハムシ類をかなりよく調査し、いくつか重要な目録も公表している経歴から、単純な誤同定とは考えられない。ムツキボシであった可能性が皆無ではないと思われるが、採集者の標本を収蔵している富山市科学博物館の標本 (整理不十分) 中にはこれまでのところいずれの種に該当する標本も発見できなかったため、この記録は現時点では参考記録に留めておく。

2. キボシツツハムシとムツキボシツツハムシの体背面の斑紋変異

a. キボシツツハムシ

本種の体背面の斑紋パターンには、本州、四国および九州に分布する個体群にはほとんど顕著な地理的変異が認められない。それに対して、南西諸島ではかなり複雑な地理的変異が認められる (Nakane & Kimoto, 1961a, b; Nakane, 1963b; Kimoto, 1964, 1974; 木元, 1979, 1994; 中根, 1985)。地域によっては亜種分化 subspeciation を起こしているが、その様態は複雑で、十分に明らかにされているとは言い難い。いくつかの亜種を認めている研究者もある (Chûjô, 1935a, b, 1958; Chûjô & Kimoto, 1961; 中根, 1963a; Nakane, 1963b; Kimoto, 1974; 木元, 1979, 1994; 鈴木^邦・滝沢, 2007)。また、島嶼 (八丈島: 平野, 1988; 鹿児島県吐噶喇 (トカラ) 列島中之島: Nakane, 1963b; 五島列島: 今坂・江島・中山, 1981; 平戸島: 今坂, 2001) によっては、著しい同一個体群内変異や特徴的な変異も見られる。Nakane & Kimoto (1961b) は、トカラ列島中之島の個体群がひじょうに著しい斑紋の変異性を示すことを指摘した。島嶼における隔離の効果の顕著な現れであろう。

Nakane (1963b) は、翅鞘の色彩・斑紋型には、原則的に明瞭に 8 対の黄褐色斑紋が認められる基本型 *f. typica* Nakane, 1963 (木元 (1979) は、キボシ型 *f. perelegans* Baly, 1873 と呼ぶ) のほか、次の 5 型を区別した (Nakane は、'ab.' (= aberrant) としているが、ここではこうした同一種内の体色変異型には、'f.' (= forma) の語を充てておきたい: 黒色型 *f. kuro* Nakane, 1963, 黒翅型 *f. kurobane* Nakane, 1963, 薄紋型 *f. usumon* Nakane, 1963, 黄翅型 *f. lividus* Nakane, 1963 および 6 紋型 *f. gotoi* Nakane, 1963。基本型は、翅鞘に原則的に明瞭に 8 対の黄褐色斑紋が認められる ('8 紋型' (鈴木^邦ほか, 2015)) のもので、紋の相対サイズにはかなり変異が生じ、翅鞘中央の 2 紋が消失するものまでを包含する。小楯板の外側と翅鞘端の各 1 対が縮小すると共に他の紋が消失するものもある。宮古島には、'大紋型 (大野, 1971)' と呼ばれる *f. takahashii* Chûjô, 1935 が出現する。今坂 (2001) は、平戸島や五島列島にも黒色型が出現すると述べている。Kimoto (1974) は、キボシの南西諸島における地理的変異に関する報告の中で、近縁種も含めた議論を行っているが、これらの諸型の地理的分布状況も概況のみで、詳細が判明しているとは言い難く、今後の課題である。

b. ムツキボシツツハムシ

本種は、キボシの基本型 (*f. perelegans* Baly, 1873; *f.*

typica Nakane, 1963) に似るが、翅鞘の黄褐色斑紋が 8 対ではなく、6 対しかない点で明瞭に区別される。この他に、キボシでは前胸背板の幅が長さの約 2 倍あるのに本種では約 1.6 倍と顕著に細いことなどでも容易に区別できる。Kimoto (1983) によってキボシとは独立の別種として記載される以前は、注意が払われることはほとんどなかったように思われるが、Nakane (1963b) は、その 20 年前に既にキボシの '6 紋型' (大野, 1971) *f. gotoi* Nakane, 1963 として認識していた (中根, 1985) ことは記憶されてしかるべきであろう。

ムツキボシには、稀に翅鞘基部の内側の 2 斑紋が融合する個体が出現する (稲泉, 2005; 鈴木^邦・多比良・南, 2015) 以外は、さほど顕著な地理的変異は認められない。

なお、Kimoto (1983) の原記載中にも明瞭な標本写真が載っており、保育社の『原色日本甲虫図鑑 IV』(木元, 1984; Pl. 32) の木元担当のハムシ科中にもキボシと共に見事なカラーの標本写真が載っているから、一般の同好者でも両者の区別は外見上のみでもさほど難しくない。鈴木^邦・多比良・南 (2015) は、静岡県産の両種の雌雄の写真を示した。

キボシやムツキボシと類似の斑紋パターンを持つ種は、他にも数種知られている。特に、斑紋パターンがキボシの基本型と本質的には同じで、ムツキボシよりも相互にいっそう近縁なのではないかと推定されるリュウキュウツツハムシ *C. lochooensis* Chûjô, 1935 (Chûjô, 1935a. タイプ産地: 沖縄県先島諸島西表島; 以下リュウキュウツツ) が南西諸島 (沖縄県: 沖縄諸島, 先島諸島) から知られている。リュウキュウツツも、キボシ同様、特に南西諸島において一定の亜種分化を起していると考えられる。Kimoto (1974) および木元 (1979, 1994) は、両種の亜種分化に関して地誌と関連づけながら一定の議論をしているが、十分なコンセンサスの得られるような定説となっているとは言い難い。以上の 3 種は、分類学的扱いにも、研究者によってかなりの差異が認められ、また同じ研究者においても時代と共に変化が生じてきている現状から、今後十分な検討のなされるべき種群である。

3. キボシツツハムシとムツキボシツツハムシの寄主植物その他

表 2 に、キボシツツの寄主として記録されている植物を挙げた。

キボシの寄主もしくは成虫が食用として利用している植物は、筆者らが調べ得た限り表 2 に収録したように 8 科に及んでおり、本種はかなりの多

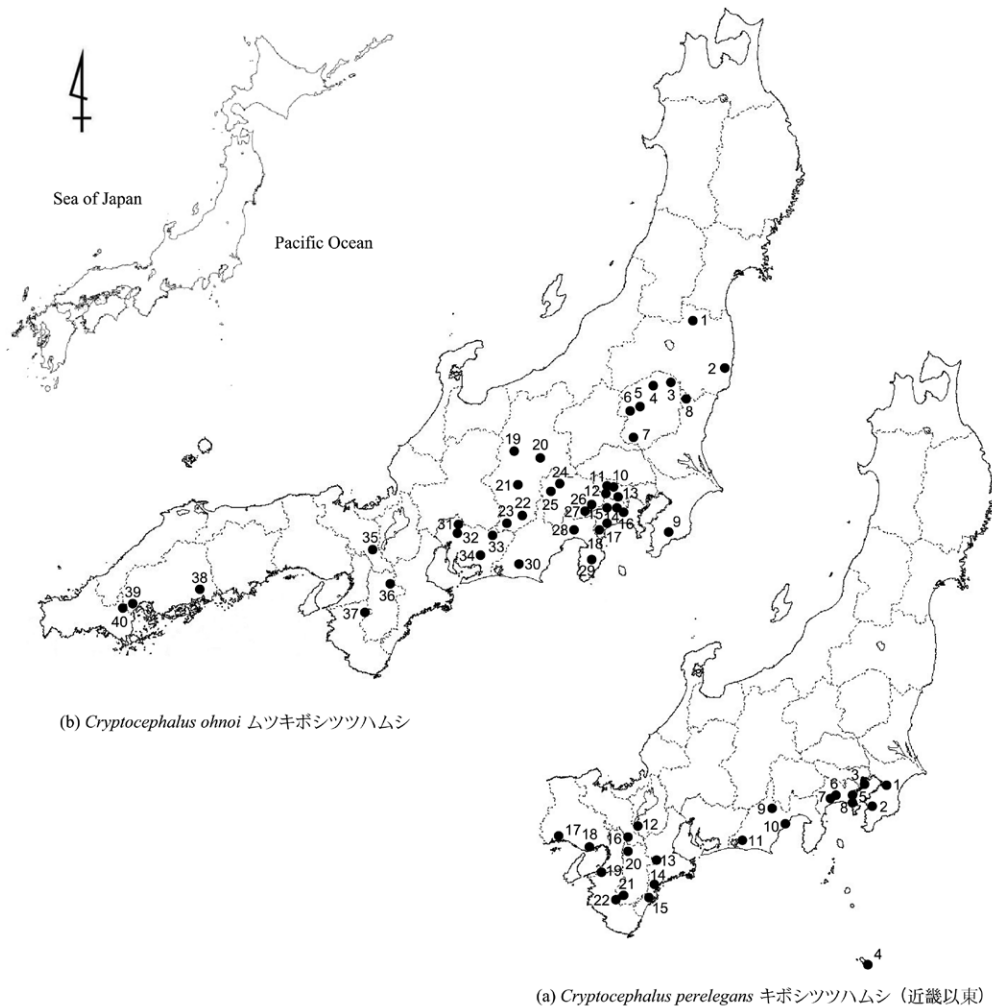


図1. キボシツツハムシ (a) とムツキボシツツハムシ (b) の地理的分布。前種に関しては、近畿地方以東の、後種に関しては知り得た全ての記録を収録した。アラビア数字は、表1.のそれに対応する。(a) キボシ *C. perelegans* : 1 千葉市 Chiba-shi, 2 富津市 Futtsu-shi (千葉県 Chiba Pref.), 3 大田区 Ōta-ku, 4 八丈島 I. Hachijō-jima (東京都 Tokyo Metropolitan Area), 5 横浜市 Yokohama-shi, 6 藤沢市 Fujisawa-shi, 7 茅ヶ崎市 Chigasaki-shi, 8 横須賀市 Yokosuka-shi (神奈川県 Kanagawa Pref.), 9 静岡市 Shizuoka-shi, 10 富士市 Fuji-shi, 11 浜松市 Hamamatsu-shi (静岡県 Shizuoka Pref.), 12 大津市 Ōtsu-shi (滋賀県 Shiga Pref.), 13 津市 Tsu-shi, 14 多気郡 Taki-gun, 15 尾鷲市 Owase-shi (三重県 Mie Pref.), 16 八幡市 Yawata-shi (京都府 Kyoto Pref.), 17 神戸市 Kōbe-shi, 18 姫路市 Himeji-shi (兵庫県 Hyōgo Pref.), 19 泉南郡 Sennan-gun (大阪府 Osaka Pref.), 20 奈良市 Nara-shi, 21 吉野郡 Yoshino-gun (奈良県 Nara Pref.), 22 田辺市 Tanabe-shi (和歌山県 Wakayama Pref.); (b) ムツキボシ *C. ohnoi* : 1 福島市 Fukushima-shi (福島県 Fukushima Pref.), 2 双葉郡 Futaba-gun 3 那須郡 Nasu-gun, 4 那須塩原市 Nasu-Shiobara-shi 5 日光市 Nikkō-shi, 6 鹿沼市 Kanuma-shi, 7 佐野市 Sano-shi (栃木県 Tochigi Pref.), 8 久慈郡 Kuji-gun (茨城県 Ibaraki Pref.), 9 君津市 Kimitsu-shi (千葉県 Chiba Pref.), 10 青梅市青梅丘陵 Oume-shi (Oume Kyūryō), 11 青梅市御岳山 Oume-shi (Mt. Mitake-san), 12 西多摩郡 Nishi-Tama-gun, 13 八王子市 Hachijō-shi (東京都 Tokyo Metropolitan Area), 14 愛甲郡 Aikou-gun, 15 相模原市 Sagami-hara-shi, 16 厚木市 Atsugi-shi, 17 小田原市 Odawara-shi, 18 足柄下郡 Ashigara-shimo-gun (神奈川県 Kanagawa Pref.), 19 松本市 Matsumoto-shi, 20 諏訪市 Suwa-shi, 21 伊那市 Ina-shi, 22 飯田市 Iida-shi, 23 下伊那郡 Shimo-Ina-gun (長野県 Nagano Pref.), 24 北杜市 Hokuto-shi, 25 韮崎市 Nirasaki-shi, 26 南都留郡 (鳴沢村) Minami-Tsuru-gun (Narusawa-mura), 27 南都留郡 (山中湖村) Minami-Tsuru-gun (Yamanaka-ko-mura) (山梨県 Yamanashi Pref.), 28 富士宮市 Fujinomiya-shi, 29 賀茂郡 Kamogun, 30 浜松市 Hamamatsu-shi (静岡県 Shizuoka Pref.), 31 豊田市 Toyota-shi, 32 北設楽郡設楽町 Kita-Shitara-gun (Shitara-chō), 33 北設楽郡豊根村 Kita-Shitara-gun (Toyone-mura), 34 岡崎市 Okazaki-shi (愛知県 Aichi Pref.), 35 京都市 Kyoto-shi (京都府 Kyoto Pref.), 36 山辺郡 Yamabe-gun (奈良県 Nara Pref.), 37 伊都郡 Ito-gun (和歌山県 Wakayama Pref.), 38 府中市 Fuchū-shi, 39 大竹市 Ōtake-shi (広島県 Hiroshima Pref.), 40 岩国市 Iwakuni-shi (山口県 Yamaguchi Pref.). Fig. 1. Geographical distribution of *Cryptocephalus perelegans* (a) (plotted for the representatives among the known localities northeast of Hyōgo Pref., Kinki District, Honshu) and *C. ohnoi* (b) in the Japanese Islands. Arabic numerals correspond to those shown in Table 1.

表2. キボシツツハムシの既知寄主植物. Table 2. Known host plants of *Cryptocephalus perelegans*.

科Family	属および/あるいは種 [和名] Genus and/or Species [Japanese Name]/文献 Reference
カバノキ科 Betulaceae	ハンノキ類 <i>Alnus</i> spp. / 滝沢 (1997, 台湾)
ブナ科 Fagaceae	クリ <i>Castanea crenata</i> Siebold et Zucc. / 竹中 (1975, 室内飼育), 堀井 (2008, 神奈川県藤沢市), 鈴木 _邦 ・宮内・南 (2015, 千葉県富津市) シイ類 <i>Castanopsis</i> spp. / 滝沢 (2007) マテバシイ <i>Lithocarpus edulis</i> (Makino) Nakai / 宮谷 (2012, 神奈川県横浜市) コナラ <i>Quercus serrata</i> Murray subsp. <i>serrata</i> var. <i>serrata</i> / *Chûjô & Kimoto (1961)
クスノキ科 Lauraceae	クスノキ <i>Cinnamomum camphora</i> (L.) J. Presl / * 中根 (1963a)
マメ科 Leguminosae (= Fabaceae)	イタチハギ (外来種) <i>Amorpha fruticosa</i> L. / 鈴木 _邦 ・多比良・南 (2015, 静岡県富士市) マルバハギ <i>Lespedeza cyrtobotrya</i> Miq. / 高倉 (1973, 福岡県平尾台)
コムカンソウ科 Phyllanthaceae	カンコノキ <i>Phyllanthus sieboldianus</i> T. Kuros. / Chûjô (1958, 沖縄), Ohno & Hirano (1970, 屋久島), Chûjô & Kimoto (1961)
タデ科 Polygonaceae	イタドリ <i>Fallopia japonica</i> (Houtt.) Ronse Decr. var. <i>japonica</i> / 竹中 (1975, 室内飼育), 滝沢 (1994b, 奄美大島産の室内飼育)
サクラソウ科 Primulaceae	モクタチバナ <i>Ardisia sieboldii</i> Miq. / Chûjô (1958, 沖縄)
ムクロジ科 Sapindaceae	クスノハカエデ <i>Acer itoanum</i> (Hayata) H. L. Li / Chûjô (1958, 沖縄)

科, 属および種の学名表記は, 全て, 被子植物の最新のAPGIII (2009) およびAPGIV (2017) 分類体系に準拠した大橋広ほか編 (2015-17) の『改訂新版 日本の野生植物』(全5巻; 平凡社) (本稿で取り上げた植物は, いずれも第1-4巻に収録されている) に従い, 高次分類群から学名のABC順に配列した。米倉 (2012) の『日本維管束植物目録』は, 基本的にAPGIIIに準拠して編纂された目録で, ひじょうに便利であるが, 編者の判断で必ずしもAPGIIIの体系に従っていない部分があり, APGIVによる改訂部分は反映されていないから, 大橋ほか編の図鑑の扱いは一致していない部分がある。APGIII体系に関しては米倉 (2013) の解説がある。大橋ほか編の図鑑は, 1-III巻はAPGIIIに準拠しているが, IV-V巻はAPGIV体系が反映されている。そのため, 本図鑑で採用されている分類体系の概要は, 1-III巻までとIV-V巻のそれとは異なっている点に注意。本稿で扱った植物は, 1-IV巻に含まれている。和名はカタカナで記し, 大橋ほか編に従った。本文中で言及する際は和名のみを記した。当該植物が少なくとも食用として利用されていることが観察された場所を文献の年号の後に記した。原典を知り得なかったものは, 二次文献からの間接引用を示すために*印を頭に付した。二次文献は, 知り得た限りで最も古いものを挙げた。

食性の polyphagous 種であることが判る。ツツハムシ類の成虫は, 通常は葉を摂食するが, 訪花して花粉も食用としているものもある。幼虫は, 自分の身を保護するために自身の糞で囊状の巣を形成し, それを背負いながら地上で枯れ葉を食用としている。そのため, 多食性を示す種が多い。

ムツキボシの寄主植物などの生態情報は, ほとんど知られていないが, カラマツ *Larix kaempferi* (Lamb.) Carr. (マツ科 Pinaceae) の新葉から得た (ただし摂食しているとの確実な観察記録はない) との報告が複数ある (山崎_隆, 2003b; 滝沢, 2007) ほか, マメザクラの葉上で採集したとの報告がある (鈴木_邦・多比良・南, 2015)。松原 (2017) は, モミ *Abies firma* Siebold et Zucc. (マツ科) のスノーピングで得た成虫を生かして持ち帰り, モミの葉を与えて飼育したところ好食したことから, 少なくとも成虫の後食植物の可能性が高いと推測した。

また, キボシもムツキボシも, ライトトラップに良く飛来するようである [キボシ: 原木, 1984; 島地, 1996 / ムツキボシ: 山崎_隆, 2003a; 加藤・多比良, 2005; 斉藤_明・尾崎・鈴木_勝, 2013; 鈴木_邦・多比良・南, 2015]。キボシは, マレーズトラップで

採集されたとの記録もある (加藤・多比良, 2005; 鈴木_邦・多比良・南, 2015)。

おわりに

地理的変異を含めた著しい種内変異を起こしている種は, 種分化 speciation や亜種分化 subspeciation をめぐる諸問題を考究する上で格好の材料である。種や亜種の認定や分類学的取り扱いには, 当然のことながら地理的分布や地理的変異の様態についての十分な理解が前提となる。筆者らは, キボシやムツキボシ, さらにこれらの近縁種の合理的な分類体系の構築には, 形態形質に関してはもとより分子系統解析の結果との比較検討も有効になるであろうと考えている。

キボシは, 日本列島の中西部から台湾にかけて分布しており, 分布域での個体数はどこでも多く, むしろ普通種であると言える。しかし, 既述のように東海~関東地方などにおける記録は, 比較的近年に限られているものがほとんどで, 観葉植物などに付着して移入された可能性が高いとの推測 (平野, 1988) は的を射ているように思われる (鈴木_邦・多比良・南, 2015)。既述のように, 筆者らの

研究の結果、愛知県からはこれまでのところキボシの確実な記録がなくなりましたが、神奈川・静岡両県下や近畿地方における最近の状況を踏まえると、特に名古屋市などの都市の市街地の公園などには既に定着している可能性が高いと予想され、同好諸氏の注意を喚起したい。

引用文献

有井一雄, 2008. コウチュウ目 Coleoptera. 津久井町史編集委員会編『津久井町の昆虫 II』, pp. 54-92. 相模原市市民局市民活力推進部津久井町地域自治区事務所, 相模原市.

東 清二・木元新作, 1981. 沖縄の離島のハムシ類目録(資料). 琉球大学農学部学術報告, (28): 49-55.

Baly, J. S., 1873. Catalogue of the phytophagous Coleoptera of Japan, with descriptions of the species new to science. Trans. Ent. Soc. Lond., 1873, Part I. pp. 69-99.

Chûjô, M., 1935a. Chrysomelidae of Loo-choo Archipelago (I). Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, 25: 69-89.

Chûjô, M., 1935b. Chrysomelidae of Loo-choo Archipelago (II). Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, 25: 203-211.

Chûjô, M., 1954. A taxonomic study on the Chrysomelidae (Insecta-Coleoptera) from Formosa. VII. Subfamily Cryptocephalinae. Quart. Jour. Taiwan Mus., 1954: 137-243.

Chûjô, M., 1958. Chrysomelid-beetles of Loo-choo Archipelago (V). Mem. Fac. Lib. Arts & Educ., Kagawa Univ., II, (64): 1-19.

Chûjô, M. & S. Kimoto, 1961. Systematic catalog of Japanese Chrysomelidae (Coleoptera). Pacific Insects, 3: 117-202.

原木直美, 1984. 井川ダム夜間採集会の報告. 静岡の甲虫, 2: 47-48.

平野幸彦, 1966. 西湘地方産ハムシ類について IV (クビナガハムシ亜科, ナガツツハムシ亜科, ツツハムシ亜科について). 神奈川虫報, (20): 2-8.

平野幸彦, 1985. 続・神奈川の甲虫 (II). 神奈川虫報, (75): 1-18.

平野幸彦, 1988. 八丈島のキボシツツハムシはどこから来たか. 月刊むし, (212): 41.

平野幸彦, 2006. 甲虫類. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編『神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006: 昆虫類・クモ類篇』(pp. 303-442): 343-367. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.

平野幸彦・高橋和弘・梶 真史, 2006. 厚木市七沢・大山のコウチュウ目. 厚木市七沢の動植物 III. 厚木市郷土資料館資料集, (20): 3-90. 厚木市教育委員会, 厚木市.

平野幸彦ほか, 1995. 甲虫類. 神奈川県レッドデータ生物調査団編『神奈川県レッドデータ生物調査報告書』(257 pp.): 212-257. 神奈川県立博物館調査研究報告(自然科学), (7). 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.

堀井邦弘, 2005. 神奈川県でキボシツツハムシを採集. 月刊むし, (413): 46.

堀井邦弘, 2008. 神奈川県のキボシツツハムシその後. 月刊むし, (444): 46.

穂積俊文, 1997. 長野県の甲虫の記録 (3) 《ハムシ科》. まつむし(松本むしの会), (88): 1-10.

市橋 甫・川原 誠・前川和則・生川展行, 1982. 尾鷲地域の甲虫類. 尾鷲地域野生生物調査会・三重県自然科学研究会編『尾鷲地域野生生物調査報告書』(575 pp.): 505-547.

今坂正一, 2001. 高原半島の甲虫相 4. 長崎県生物学会誌, 長崎, (53): 65-84.

今坂正一・江島正郎・中山博彦, 1981. 鞘翅目 Coleoptera. 江島正郎ほか編『五島列島産昆虫目録』(pp. 247-332): 279-332. 長崎県生物学会編『五島の生物(宍岐・対馬との対比)』(32+764 pp.). 長崎県生物学会, 長崎市.

今坂正一・榎原 寛, 1981. 男女群島の甲虫相. 長崎県生物学会編『五島の生物(宍岐・対馬との対比)』(32+764 pp.):

705-725. 長崎県生物学会, 長崎市.

稲泉三丸, 2000. 栃木県から見つかったハムシ類. 宇都宮大学農学部学術報告, 17(3): 28-66.

稲泉三丸, 2003. ハムシ科 Chrysomelidae. 栃木県自然環境調査研究会昆虫部会編『とちぎの昆虫 II』: 361-434. 栃木県林務部自然環境課, 宇都宮市.

稲泉三丸, 2005. ムツキボシツツハムシ. 栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館編『レッドデータブックとちぎ: 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物 2005』(898 pp.): 779.

稲泉三丸, 2014. 栃木百名山・虫登記 (23). インセクト, 65: 179-183.

神谷一男, 1955. 奥三河の昆虫相. 愛知県商工部通商観光課・北設山岳県立公園地区協議会・鳳来寺山県立公園地区協議会編(及び発行)『北設山岳地帯及鳳来寺山県立公園一帯の自然科学(調査報告書)』(168 pp.): 33-70.

苅部治紀・新津修平・松本慶一・苅部幸世・高桑正敏・藤田 裕, 1999. 愛川町郷土博物館展示基礎調査報告書第 8 集. 愛川町の動物, pp. 41-75. 愛川町教育委員会.

加藤 徹・多比良嘉晃, 2005. 里山における甲虫の多様性と調査手法として各種トラップの特徴 - 静岡県林業技術センターの甲虫 - 静岡県林業技術センター研究報告, (33): 29-71.

加藤 徹・多比良嘉晃・塩澤靖弘, 2008. 佐鳴湖周辺の昆虫相. 静岡県産業部振興局研究調整室編『快適空間「佐鳴湖」の創造」研究報告書(579 pp.): 470-523. 静岡県産業部振興局研究調整室, 静岡市.

川畑喜照, 2010. 伊豆諸島八丈島の甲虫 VII. 神奈川虫報, (172): 29-39.

紀伊丹生川流域委員会編, 2001. 紀伊丹生川流域生物調査結果一覧. 昆虫類確認種目録, 31 pp.

Kimoto, S., 1964. The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands. III. Jour. Fac. Agr., Kyushu Univ., 13: 141-164.

Kimoto, S., 1967. Some quantitative analysis on the chrysomelid fauna of the Ryukyu Archipelago. Esakia, Fukuoka, (6): 27-54.

木元新作, 1972. 九州大学農学部付属彦山生物学研究所蔵の金花虫類(昆虫綱, 鞘翅目)標本について II. 久留米大学論叢, 20: 1-16.

Kimoto, S., 1974. On some infraspecific variation of chrysomelid beetles (Coleoptera) occurring in the Ryukyu Archipelago. Kontyû, Tokyo, 42: 270-282.

木元新作, 1976. CHRYSOMELIDAE ハムシ科. 白水 隆・宮田彬編『対馬産昆虫類目録』. 長崎県生物学会編『対馬の生物』(40 col. pls. + 960 pp.): 567-763. (ref. pp. 698-710). 長崎県生物学会, 長崎市.

木元新作, 1979. 『南の島の生きものたち』(科学ブックス 38). 7+203+6 pp. 共立出版, 東京.

Kimoto, S., 1980. Catalogs of the Chrysomelidae of Tokara Is., Kikaigashima and Okierabujima in the Ryukyu Archipelago. Kurume University Journal, 29: 153-159.

木元新作, 1982. 馬場金太郎博士採集の琉球列島産ハムシ類. 越佐昆虫同好会々報, (53): 63-67.

Kimoto, S., 1983. New or little known Chrysomelidae (Coleoptera) from Japan and its adjacent regions, III. Entomol. Rev. Jpn., 38: 45-54.

木元新作, 1984. ハムシ科 Chrysomelidae. 林 匡夫・森本 桂・木元新作編著『原色日本甲虫図鑑 IV』(VII + 438 pp., 72 Pls.): 147-222, pls. 29-43. 保育社, 大阪.

木元新作, 1994. 成虫篇. 木元新作・滝沢春雄『日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説』(xvii + 539 pp.): 1-364. 東海大学出版会, 東京.

木元新作, 1997. 成虫篇. 木元新作・滝沢春雄『台湾産ハムシ類幼虫・成虫分類図説』(xvii + 581 pp.): 1-427. 東海大学出版会, 東京.

木元新作, 2003. 『タイ・インドシナ産ハムシ類図説』. 150 pp. 東海大学出版会, 東京.

Kimoto, S. & J. L. Gressitt, 1966. The Chrysomelidae of the Ryukyu

- Archipelago. Pacific Insects, 8: 467-577.
- Kimoto, S. & I. Hiura, 1964. A list of the chrysomelid specimens preserved in the Osaka Museum of Natural History I (Insecta: Coleoptera). Bull. Osaka Mus. Nat. Hist., (17): 5-18.
- 岸 一弘, 2012. 茅ヶ崎市でキボシツツハムシを採集. 神奈川虫報, (177): 10.
- 北村征三郎, 1989. 1987年度採集会 採集昆虫目録. 鞘翅目目録. AMICA (富山県昆虫同好会会誌), (30): 106-109.
- 小宮義璋, 1983. 伊豆諸島のハムシ. 月刊むし, (153): 38-39.
- Lopatin, I., A. Smetana & M. Schöller, 2010. Genus *Cryptocephalus* Geoffroy, 1762. Löbl, I. & A. Smetana (Eds.). Catalogue of Palaearctic Coleoptera. Vo. 6. Chrysomeloidea (924 pp.): 580-606. Apollo Books, Stenstrup, Denmark.
- 松原 豊, 2017. 神奈川県箱根町でモミからムツキボシツツハムシを採集. 神奈川虫報, (192): 35.
- 松原 豊・難倉正人, 2016. コウチュウ目 Coleoptera. 八王子市市史編集専門部会自然部会編『新八王子市史自然調査報告書: 八王子市動植物目録』(iv + 562 pp.): 296-379. 八王子市史編さん室, 八王子.
- 宮谷秀明, 2009. 横浜市内でキボシツツハムシを採集. 神奈川虫報, (165): 24.
- 宮谷秀明, 2012. 横浜市内のキボシツツハムシの発生状況. 神奈川虫報, (177): 111-112.
- 三好和雄・田中 馨, 1988. ハムシ科 Chrysomelidae. 山口県産昆虫目録. 鞘翅目. 山口県立山口博物館編『山口県の昆虫』. pp. 126-187.
- 水野弘造, 1992. 京都府産ハムシ科甲虫目録. 関西甲虫談話会資料, (4): 1-20. 関西甲虫談話会, 宇治市.
- 水野弘造, 2001. 水野弘造の20世紀甲虫誌. 関西甲虫談話会資料, (18): 1-147. 関西甲虫談話会, 宇治市.
- 水野弘造・細田倅市, 1991. 鳳凰山産甲虫類目録 (山梨県韮崎市). 関西甲虫談話会資料, (2): 1-153. (Ref. ハムシ科: pp. 122-130) 関西甲虫談話会, 宇治市.
- 水野弘造・細田倅市, 2010. 韮崎市 (山梨県) の甲虫. 地域甲虫自然史, (6): 1-205, 8 pls. (Ref. ハムシ科: pp. 165-178 (含: マメゾウムシ科). 日本甲虫学会, 大阪市.
- 中村寛志・大平仁夫・山崎隆弘・浅岡孝知, 2005. 信州大学農学部附属 AFC 西駒ステーション桂小場試験地周辺における昆虫相 (1). コウチュウ目 (Coleoptera)・カメムシ目 (Hemiptera). 信州大学農学部附属 AFC 報告, (3): 37-49.
- 中村慎吾・奥田育夫・野見山洋之, 1996. 広島県大竹市弥栄ダムの昆虫類. 比婆科学, (170): 1-76.
- 中村慎吾・高山 直・浜口敬大, 2000. 広島県芦田川の昆虫類, 1997年の調査結果. 比婆科学, (196): 1-146.
- 中根猛彦, 1963a. ハムシ科 Chrysomelidae. 中根猛彦・大林一夫・野村 鎮・黒沢良彦編『原色昆虫大図鑑 II (甲虫篇)』(18 + 443 pp. + 192 Col. Pls.): 320-348, Pls. 160-174. 北隆館, 東京.
- Nakane, T., 1963b. New or little known Coleoptera from Japan and its adjacent regions. XXV. Sci. Rep. Kyoto Pref. Univ. (Nat. Sci. & Liv. Sci.), Ser. A. 3(5): 221-226.
- 中根猛彦, 1985. 邦産ハムシ類の覚え書. 北九州の昆虫, 32: 1-4, 1 pl.
- Nakane, T. & S. Kimoto, 1961a. A list of chrysomelid-beetles collected by Dr. T. Shiraki from the Loochoo Islands, with descriptions of new species I. (Coleoptera). Kontyû, Tokyo, 29: 14-21.
- Nakane, T. & S. Kimoto, 1961b. Entomological results from the scientific survey of the Tokara Islands. Coleoptera: Chrysomelidae. Bull. Osaka Mus. Nat. Hist., (13): 71-79.
- 中谷祐輔・矢野栄二, 2013. 近畿大学奈良キャンパス周辺におけるハムシ類の生息状況. 近畿大学農学部紀要, (46): 249-275.
- 新里達也, 1984. ムツキボシツツハムシの採集例. 甲虫ニュース, (65): 8.
- 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原浩編, 2015-2017.『改訂新版日本の野生植物』1-5. 平凡社, 東京.
- 大桃定洋, 1992. 栃木県北部地方の甲虫数種. 月刊むし, (257): 36-37.
- 大桃定洋, 2008. コウチュウ目. 久松正樹編『茨城県自然博物館総合調査報告書 2007年の昆虫およびその他の無脊椎動物の動向』(pp.): 23-28.
- 大野正男, 1966. 西博物館所蔵の種子島産ハムシ類. 北九州の昆虫, 12: 67-69.
- 大野正男, 1971. 日本産ハムシ科名彙. 東洋大学紀要 教養課程篇 (自然科学), (13): 31-126.
- Ohno, M. & Y. Hirano, 1970. The chrysomelid-beetles from the Island Yakushima, Japan (Coleoptera). Mushi, Fukuoka, 44: 31-42.
- 大野正男・鈴木富士子, 1971. 山梨県金峰山麓のハムシ相. 千葉敬愛短大生物研究会々報, (3): 59-79.
- 斉藤明子, 2016. 千葉市青葉の森公園におけるキボシツツハムシの記録. 房総の昆虫, (58): 71-72.
- 斉藤明子・尾崎煙雄・鈴木 勝, 2013. 東京大学千葉演習林で採集した甲虫類 (II). 房総の昆虫, (52): 8-10.
- 斎藤修司, 1998. 福島市摺上川上流域の甲虫分布資料 (その3). ふくしまの昆虫, 16: 46-50.
- 斎藤修司, 2016. 福島県のハムシ科甲虫の現状. InsectTOHOKU (福島昆虫ファウナ調査グループ (REF)), (38): 1-40.
- 酒井 香・高桑正敏, 2015. 東京港野鳥公園のハムシ・ゾウムシ類. 神奈川虫報, (186): 34-39.
- 坂本繁夫, 2012. 横須賀市岩戸でキボシツツハムシを採集. かまくらちょう, (82): 25.
- 佐藤光一・大桃定洋・滝沢春雄, 1999. 栃木県産甲虫分布資料 (8). インセクト, 50(1): 45-54.
- 佐藤正孝, 1976. 茶白山・面ノ木峠一帯の甲虫相. 茶白山高原道路建設予定地域付近の昆虫相. 「茶白山高原道路 (県道茶白山高原設楽線)建設予定地域の自然環境調査報告書」(別刷 pp. 125-229): 155-171.
- Shih, H.-T., 2002. A new record of the Chrysomelidae (Coleoptera: Chrysomeloidea) from Taiwan. Formosan Entomol., 22: 401-403.
- 島地岩根, 1996. 三重大学平倉演習林の鞘翅目昆虫に関する生態学的研究: I. 鞘翅目昆虫群集の基本的構成. 三重大学生物資源学部演習林報告, 20: 9-40.
- 篠田授樹, 2003. コウチュウ目. 環境省自然環境局 生物多様性センター編『生物多様性調査 生態系多様性地域調査 (富士北麓地域) 報告書』(275 pp.): 111-131.
- 須田孫七, 1982. 青梅市の昆虫. 青梅市郷土博物館編『青梅市の自然 II (動物・植物篇 I)』(534 pp.): 143-496. 青梅市教育委員会, 青梅.
- 須田孫七・須田真一・高槻成紀, 2007. 東京大学総合研究博物館所蔵須田昆虫コレクション標本目録. 鞘翅目 2 (ホソカミキリムシ科・カミキリムシ科・ハムシ科 (1)), 68 pp. + 14 pls. 東京大学総合研究博物館.
- 鈴木邦雄・南 雅之・中川 優・武田 滋・斉藤昌弘, 2015. キボシツツハムシ (ハムシ科, ツツハムシ亜科) 滋賀県に産する. 月刊むし, (536): 33-34.
- 鈴木邦雄・宮内博至・南 雅之, 2015. 千葉県におけるキボシツツハムシとムツキボシツツハムシ (ハムシ科, ツツハムシ亜科) に関する新発見. 神奈川虫報, (187): 36-38.
- 鈴木邦雄・多比良嘉晃・南 雅之, 2015. 静岡県におけるキボシツツハムシとムツキボシツツハムシ (ハムシ科, ツツハムシ亜科) の地理的分布. さやばねニューシリーズ, (19): 24-27.
- 鈴木邦雄・滝沢春雄, 2007. ハムシ科 Chrysomelidae. 森本 桂監修『新訂 原色昆虫大図鑑』(32 + 526 pp. + 196 col. pls.): 369-402, pls. 163-177. 北隆館, 東京.
- 鈴木 裕, 2012. キボシツツハムシ横須賀市追浜でも採れる. かまくらちょう, (82): 25.
- 多比良嘉晃, 2005. コウチュウ目. 静岡県自然環境調査委員会編『静岡県野生生物目録』(198 pp./ 昆虫類: pp. 97-198; コウチュウ目: pp. 107-163 - ハムシ科: pp. 151-155). 静岡県環境森林部自然保護室, 静岡市.

- 高橋寿郎, 1982. 兵庫県産 *Cryptocephalus* 属ハムシ4種の分布について(兵庫県甲虫相資料・101). きべりはむし, 10: 29-34.
- 高橋寿郎, 1987. 兵庫県のツツハムシ(兵庫県甲虫相資料・160). *Parnassius* (淡路昆虫研究会誌), (32): 3-11.
- 高橋寿郎, 1988. 兵庫県のツツハムシ(2). きべりはむし, 16: 1-4.
- 高橋 敏, 2002. ツツキボシツツハムシ. 『京都府レッドデータブック2002 上巻 野生生物篇』(935 pp.): 310. 京都府企画環境部環境企画課.
- 高橋 敏, 2012. CHRYSOMELIDAE ハムシ科 (exclusive of Bruchinae and Donaciinae). 初宿成彦編『大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録(2) ゴミムシ類, カミキリムシ科ヒメハナカミキリ属, ハムシ科』(大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第44集) (pp. 1-372): 239-372. 大阪市立自然史博物館, 大阪市.
- 高倉康男, 1973. 平尾台のハムシ. 北九州の昆虫. 19: 43-54.
- 竹中英雄, 1975. キボシツツハムシ. 中根猛彦監修『学研中高生図鑑 昆虫II(甲虫)』(445 pp.): 143(写真)& 237(解説). 学習研究社, 東京.
- 滝沢春雄, 1994a. 鹿沼市郊外の平地におけるハムシ相の季節的变化(昆虫綱・鞘翅目). 栃木県立博物館研究報告書. 12: 21-33.
- 滝沢春雄, 1994b. 幼虫篇. 木元新作・滝沢春雄『日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説』(xvii + 539 pp.): 365-513. 東海大学出版会, 東京.
- 滝沢春雄, 1997. 幼虫篇. 木元新作・滝沢春雄『台湾産ハムシ類幼虫・成虫分類図説』(xvii + 581 pp.): 429-558. 東海大学出版会, 東京.
- 滝沢春雄, 2007. 日本産ハムシ科生態覚書(3). 神奈川虫報, (158): 37-48.
- 滝沢春雄, 2012. 那須御用邸のハムシ科(昆虫綱, コウチュウ目). 栃木県立博物館研究紀要 自然, (29): 19-27.
- 上田尚志, 1980. 家島群島の昆虫(2). きべりはむし, 9(1): 9-18.
- 渡辺恭平, 2015. 小田原市でキボシツツハムシを採集. 神奈川虫報, (186): 64-65.
- 屋富祖昌子・金城政勝・林 正美・小濱継雄・佐々木健志・木村正明・河村太編, 東清二監修, 2002. 『増補改訂 琉球列島産昆虫目録』(xxv + 570 pp.): 261-270 (ハムシ科). 沖縄生物学会(琉球大学理学部海洋自然科学科), 中頭郡西原町.
- 山下善平・大川親雄・島地岩根・市橋 甫・村井俊郎・橋本理市・富田靖男・坂部元宏・中西元男・倉田 忠, 1972. 大杉谷および大台ヶ原山の昆虫相ならびに樹上クモ類相. 三重県自然科学研究会編『大杉谷・大台ヶ原自然科学調査報告書』(285 pp.): 195-285. 三重県.
- 山下善平・島地岩根・富田靖男・倉田 忠・大川親雄・坂部元宏・大久保憲秀・杉山 章・中西元男, 1975. 父ヶ谷地域の昆虫相. 三重県自然科学研究会編『宮川揚水発電計画に伴う父ヶ谷地域自然環境調査報告書』(337 pp.): 231-326. 三重県.
- 山崎秀雄, 2003. コウチュウ目 Coleoptera. 千葉県史料研究財団編『千葉県の自然誌資料千葉県産動物総目録』(XI + 378 pp.): 207-258 (Ref. p. 250). 千葉県.
- 山崎隆弘, 1992. 三河地方で採集した興味ある雑甲虫類. 三河の昆虫(三河昆虫研究会), (39): 337-338.
- 山崎隆弘, 1996a. ハムシ科 CHRYSOMELIDAE. 大平仁夫・蟹江 昇・河路掛吾・長谷川道明・松野更一・山崎隆弘. 第7章昆虫類, 第1節昆虫綱コウチュウ目. 稲武町教育委員会編『稲武町史—自然—資料編』(380 pp.: 180-266): 248-257+266 (文献). 稲武町.
- 山崎隆弘, 1996b. ハムシ科 CHRYSOMELIDAE. 大平仁夫・蟹江 昇・河路掛吾・長谷川道明・松野更一・山崎隆弘. 第5章動物, 第4節昆虫類(8)甲虫類. 設楽の自然調査会編『設楽町誌—自然編—資料編』(654 pp.: 449-551): 526-537+551 (文献). 北設楽郡設楽町.
- 山崎隆弘, 2001. ハムシ科 Chrysomelidae. 蟹江 昇・長谷川道明・河路掛吾・湯沢宜久・大平仁夫・戸田尚希・岩崎博・畑山武一郎・山崎隆弘・伊澤和義・野比良照雄・奥島雄一・吉富博之. 旭町のコウチュウ目—愛知県東加茂郡旭町—. 名古屋昆虫同好会編『旭町の昆虫』(413 pp.: 89-173): 158-166 + 551 (文献). 財団法人旭高原自然活用村協会.
- 山崎隆弘, 2003a. 長野県上村のハムシ類. 三河の昆虫. (50): 547-550.
- 山崎隆弘, 2003b. 茶臼山高原のハムシ類. 虫譜(三河生物同好会), 41(2): 20-26.
- 山崎隆弘, 2007a. 長野県下伊那地域南部のハムシ類. 伊那谷自然史論集, 8: 61-68.
- 山崎隆弘, 2007b. 浅岡孝知氏採集の長野県伊那谷のハムシ類. 虫譜, 46(1): 28-37.
- 山崎隆弘, 2008. 本宮山ハムシ図譜. 三河昆虫研究会編(及び発行)『三河本宮山昆虫誌』(108 pp.): 35-39. 「三河本宮山昆虫誌」事務局, 小坂井町.
- 余 素芳・曹 美華・陳 厚潔・李 雪, 2010. 李 奇峰・鄭興宗編『台湾産金花蟲科圖誌2』. 191 pp. 四獸山昆蟲相調査網(臺北縣淡水鎮)・行政院農業委員會農業試驗所(臺中縣霧峰鄉).
- 米倉浩司, 2012. 『日本維管束植物目録』379 pp. 北隆館, 東京.
- 米倉浩司, 2013. 『維管束植物分類表』213 pp. 北隆館, 東京.

(2018年2月27日受領, 2018年6月13日受理)

追記:本稿脱稿後,佐々木(2002)に,北海道の2ヶ所(南富良野町, 稚内市)からキボシが記録されているとの記述があるのに気づいた. 本種の確実と思われる分布記録の北限は, 現在までのところ千葉県・東京都・神奈川県・東京湾岸地域に限られており, 関東地方北部や東北6県からもまったく記録がなく, 佐々木も北海道の2記録については「標本は確認していない」と記しているため, ここでは参考記録に止めておく. また, 東京都本土部におけるキボシについては, 本稿で引用した大田区以外に, 最近, 江戸川区からも記録された(長田, 2017). 掲載記事を恵与された長田庸平博士(大阪市立自然史博物館)に深謝する.

長田庸平, 2017. 江戸川区臨海町でキボシツツハムシを撮影. うすばしる(西多摩昆虫同好会誌), (51): 17.

佐々木邦彦, 2002. 北海道から記録されているハムシ類. 昆虫と自然, 37(12): 14-16.